

職人の技を受け継ぎ歴史・文化を継承する 金沢職人大学校だより

◆ 金沢職人大学校に期待する！ 永六輔氏

職大は1996年10月に開講した。放送作家で作詞家などとしても著名な永六輔氏(1933~2016)が開講式で記念講演を行っている。その講演録は残されていないが、岩波新書「職人」(1996)の中に「職人大学学生諸君」として開講式の講演録とする内容が盛り込まれている。出版は開講式の直前であり、どうやら永氏の洒落で、講演録という形で職大や職人に期待することを述べているものだろう。

永氏は、わが国に根付いてきた尺貫法を禁止し、メートル法の使用を義務づけ、実際に尺貫法を使用している職人の取締りを行っていたことに憤慨し、尺貫法復権運動を展開した。そのことがきっかけで職人やその世界に関わるが多くなった。

修了式が行われました

第8回本科47名の修了式を2020年9月26日(土)に行った。川上学校長の式辞後、来賓の山野市長、野本市議会議員より祝辞をいただき、答辞では、板金科の大桑匡人さんから「金沢の伝統的な街づくりや次世代の育成に努力したい」という言葉が述べられた。なお、修復専攻科の修了式はコロナ禍による休校措置のため来年(2021年)に予定している。

また、講師として15年間ご指導に貢献いただいた左官科宮嶋久也氏に市から感謝状が贈呈された。

入学式が行われました

第9回入学式が2020年10月3日に行われた。入学したのは本科43名、修復専攻科44名である。学校長の式辞後、来賓の山野市長、野本市議会議員より祝辞が述べられ、入学生からの誓いの言葉が本科石工科山本千博氏、修復専攻科北野猛氏からそれぞれ述べられた。

入学式後、記念講演として、鶯(いかるが)工舎の棟梁小川三夫氏から「木のいのち木のころ」として講演いただいた。

永氏は、伝統的な職人の技術や精神を従来の徒弟制度ではなく大学校として継承しようとする金沢市の取り組みを高く評価している。日本の職人の技術には世界に通用するものも多く、世界の職人技術との交流や留学生の受入れに発展するとよいとする。

また、職人の技術を継承するには、社会からの需要が大切で、最初の金銭感覚だけでなく、使い込むほど馴染みますます良くなっていく職人によるものを大切にする精神を人びとに求めている。

川上光彦



◆ 本科：第8期の研修内容・修了作品等

本科8期生は9月修了に向けて研修を行い、修了作品づくりなどに努めました！

石工科

修了作品を無事に完成させ、実習棟裏に設置。まずまずの出来栄えに皆さんも満足顔。研修時間外でも来校し黙々と製作するなど、コツコツと努力されていた。このような努力を含め、将来の糧になり、より素晴らしい職人として成長されることでしょう。



中央は「石工科」の石碑



前列は修了作品

左官科

8月にMR0の石橋アウンサーの取材があり、壁塗りに挑戦「うまいかな〜い、難しい」プロの技に感心ひとしきり。

修了作品は模擬塀に各自のアイデアでオリジナルの壁を製作しました。特筆すべきは、研修には毎回全員参加ということです。3年間お疲れ様でした。



左石橋氏、右講師宮嶋氏



作品制作に励む皆さん

大工科

研修は夜間が多く、いつも夜遅くまで修了作品「茶室の足固め」の製作を行っていました。丸材を加工し、ぴったりと組み合わせるのが難しそう！

大工科も各自が時間をつくり自主的に学校に来て頑張っていました。スタッフとしても陰ながら応援しています。よっ！未来の名工



瓦科

瓦科の4人衆、彼らに職大はどうでしたかと尋ねたところ、現在の業務にはあまり活用できるものがなかったが、入学できたことは大変良かった。自分に出来ない瓦作業があることが、職人としてのプライドには許せないのが貴重な経験が出来た、必ず修得した技術が役に立つことがあると思っています、とのことでした。



造園科

令和2年9月に岩谷講師の指導のもと長町の大屋家の庭園を見学しました。加賀藩平士級武家屋敷の庭園を今日に伝えているとのこと。敷地内のクロマツは市指定の保存樹として指定され、主屋、門及び土塀は国の登録有形文化財です。



畳科

研修生は遠方から来ている方が多く、日曜の午前、午後に行っています。

令和2年7月に某テレビ局の取材で落語家の春風亭昇太さんが来校され、研修生がインタビューを受けるなどしました。



建具科

修了作品はミニ衝立で、各自がデザインを工夫。細い木の組子をぴったりと組み合わせるのが大切な技で、繊細な感覚が必要です。



修了作品を披露する研修生(右端は欠席の修了生の作品を持つ、講師の中居氏)

表具科

伝統的な表具に用いられる柄を学ぶとともに、各自が独自のデザインした柄を創作しました。最後は、修了作品として屏風の製作を行いました。



8期の研修生4名の内の3名が9期も継続して研修します。それほど表具の世界は奥が深いという。



◆修復専攻科

各グループで下記の修了課題に取り組む。

- ・寶集寺大仏殿の文化財的価値と修理方針
- ・重要文化財成巽閣の畳床の技法調査
- ・銅瓦葺屋根の塗装技法の標本模型制作
- ・重伝建地区「白峰」
- ・「木原家住宅」の調査
- ・吉田鉄郎設計「山田家住宅」
- ・「旧田上医院」の塀



藩政期だけでなく、明治以降の近代建築についても調査研究します。文化庁の豊城文化財鑑査官、近世規矩術の選定保存技術保持者である持田講師の指導もいただきながら調査成果の取りまとめを進めています。

コロナ禍による休校の関係で修了が遅れ、成果報告会は、11月7日(土)に開催します。

板金科

コロナ禍による休校のため6月から8月まで、久野講師の工場において、銅板を叩いて形づくりを行う手法で、「鬼」や「勝男木(かつおぎ)」を製作しました。



「鬼」と研修生、右から3人目は久野講師



「鬼」の製作風景

子どもマイスターズスクール

スタートして6回実施、道具の使い方も少しずつ様になってきています。ミニベンチを一人一個製作、4回で完成予定です。また、鬼瓦の製作方法を学び、製作した鬼瓦も焼き上がり、子どもたちも思った以上の出



来栄えに感動していました。



職人(講師)派遣事業

【畳科講師の派遣】

2020年10月の3日間、高松市で開催される讃岐畳技能士会の講習会に、畳科講師吉本隆史氏を派遣する予定です。伝統的な「手縫い畳床」の製作技術について指導を行います。

【瓦科講師の派遣】

2019年6月の7日間、台湾政府文化資産局の招聘で、瓦科講師天池満、編澤保二、武苗浩之、専門員戸石久徳の4名を派遣。日本統治下の歴史的建造物について保存と活用の取り組みが盛んに行われています。これを進めるために、今回は明治から昭和初めに製造された古い瓦の修復技術について、現地の職人9名を対象に研修を行いました



東山休憩館の修復事業

修復専攻科1期生が修了課題として観音町の涌波家住宅主屋(現東山休憩館、有形文化財)の修復を行いました。総勢45名が参加し、調査の結果、江戸末期に建てられた平屋建ての建物で、明治末頃に2階が増築されたことが判明しました。

調査結果を踏まえ修復工事を実施。地域で建築に携わる様々な職種が協働することにより歴史的建造物の修復が可能なが実証されました。1期生の活躍は、修復専攻科の礎を築いたといえよう。



修復前(上)・修復後(下)



修了生の研究会活動(持田塾)

2002年10月に大工や建築士が集い、修了生の研究会として規矩術を学ぶ塾を開始。修復専攻科講師の持田武夫氏は近世規矩術の選定保存技術保持者であり、その卓越した技術の継承者です。国宝等の保存修理に携わる堂宮大工でなければ直接学ぶ機会は困難ですが、我々の熱意に快く応えていただきました。

規矩術の会「持田塾」では、特に反りをもつ軒の正確な納まりの原寸図の書き



方や墨付け・加工等の技術を学んでいます。こうした継続的な研究活動によって文化財建造物木工修理技能者を輩出するまでに至り、金沢市内の歴史的建造物の修復や金沢城址公園復元整備工事などに参画する機会を得ています。(越島裕昭)

【編集後記】

職大の開講式の記録をみると、式典には講師や研修生の他、招待者など計約190人もの関係者が出席するとともに、永氏の講演には市民も約80名参加しており、職大は熱い思いで創立されたことが感じられる。創立から25年目を迎え、これまでの成果を踏まえつつ、設立時のそうした関係者が寄せた熱い思いを確認して初心に戻りつつ、関係する職人組合、講師、研修生とともに、これからの社会にふさわしい職大の役割を果たしていきたいとあらためて強く思う。(M.K.)

修了生紹介(安田正太郎氏)

安田正太郎氏(58歳)は本科(大工)第1期、修復専攻科第1期の修了生であり、最も活躍される棟梁の一人である。金沢城の橋爪門櫓の復元整備に大工として参加し、河北門や橋爪門などでは若くして棟梁を務めた。



高卒後、棟梁の元に住込みで弟子入り、基本的技能を修得して30歳を機に独立、職大には強く希望して入学した。持田先生から奥の深い規矩術を学び、その後の文化財等の修復の支えになっている。今も仲間とともに持田塾で学び、教えられることが多いという。

多少経験年数が浅くても熱意のある若者は職大に受入れ育てるべきだと熱く語る。

講師・研修生紹介(表具科)

【永島明さん】

義理のおじの表具屋を継ぐため20歳でこの世界に入り、現在まで約50年やってきました。昨年厚生労働省による卓越した技能を持つ『現代の名医』に選出されました。子ども3人、孫5人に恵まれ、次女が後継ぎとして修行しています。

左より、講師の永島明氏、本科研修生の加藤嘉氏



【加藤嘉さん】

父の表具屋を継ぐ形で21歳からこの世界に入りました。途中表具から離れた時期もありましたが32歳から再び表具の世界に戻り現在まで通算約20年。職大には組合の勤めもあり入校しました。今後も職大で修得した技能を生かし、活躍していきたいと思えます。

「金沢職人大学校だより」No. 02、2020年10月

【発行・問合せ先】

公益社団法人 金沢職人大学校

理事長・学校長 川上光彦

住所：金沢市大和町1番1号

(金沢市民芸術村の一角にあります。)

Tel 076-265-8311 Fax 076-225-8314

Webサイト <http://www.k-syokudai.jp/>

事務局：平日9:00~17:00、土日・祝日休み

